



石神井南中学校 学校だより

平成31年度 第1号
発行日 4月17日(水)
練馬区立石神井南中学校
校長 田邊 克宣

『学校は、英知の鏡を磨く場所』(入学式式辞より)

校長 田邊 克宣

新入生諸君。入学おめでとう。

今、君たちは、どんな思いでそこに座っていますか。夢や希望、期待や、あるいは不安であったりと、117人、それぞれの気持ちがあることでしょう。

一つ、質問をします。中学校は、何をやる所でしょう。今、この体育館にいる600人近い人が、それぞれ考えたであろう、その考え一つ一つの全てが、正しいのだと思います。そして私は、学校は、「英知の鏡を磨く所」と答えます。

君たちは、鏡を磨いたことがありますか。鏡を磨くと、そこには、自分が映ります。ぴかぴかに磨き上げられた鏡に映るのは、清々しい表情の自分の顔でしょう。つまり鏡を磨くとは、自分を磨くということであり、その、磨くものが、英知なのです。

エイチという言葉を知っていますか。どういう字を書くか、思い浮かびますか。漢字では4通りの書き方があるのですが、小学校で学んだ字では、英語の英に、知識の知と書きます。意味は、「すぐれた知恵」です。人は古来、よりよく生きようと、知恵を働かせてきました。知恵は、知識と、経験を基に、その組み合わせによって無限に生まれ出てくるものです。知恵を働かせるには、知識が必要です。現在、70億を超える人々が、それぞれの国や地域で培ってきた大切な歴史と文化を背景とし、それを基に発展させてきた文明を裏付けとした、確かな知識がなければ、それはただの思い付きです。また、知識だけなら、人の頭脳は、インターネットの情報量に太刀打ちできないでしょう。しかし、ネット上に氾濫する情報がウソかマコトかは、それを見極める確かな判断力が必要です。

中学校では、確実な知識を身に付け、たくさんの経験をし、その積み重ねによって、よりよく生きる「知恵」を養っていくのです。それが、英知の鏡を磨くということなのです。

そのために、一時間一時間の授業を大切に受け、行事に一生懸命取り組み、仲間と共に、係や、委員会や、部活動に励んで下さい。君たち一人一人が、それぞれの目標に向かって努力し、同時に、仲間の存在と頑張りを認め合いながら、互いに、よりよい成長を目指す所に、いじめが生じる隙などできません。石南中に、いじめを芽生えさせ、はびこらせる隙など作らせない方法は、君たちが一人一人、生き生きと学校生活を送ることです。

今日から、ここで、中学校生活が始まります。新しいことに挑戦する中で、うまくできて笑ったり、失敗して泣いたりすることもあるでしょう。失敗しても構いません。失敗こそが、人を大きく成長させるのですから、むしろ失敗を楽しみながら、新しいことにどんどん挑戦して行って下さい。

中には、しなくてもよい失敗や、少し考えれば防げる失敗もありますが、一つだけ、してはいけない失敗があります。それは、誰かを傷付けることです。誰かとは、仲間と、そして、自分自身です。もう中学生となるのですから、自分で、自分たちで解決できることは、任せます。ただし、石南中では、いじめは絶対に認めません。いわゆるいじりも同じです。決して、自分も、仲間も、傷付けることはしないで下さい。これから中学校生活を送る中で、いじめに限らず、仲間のことでも、自分のことでも、無理に我慢することは一つもありません。どんなことでも、我慢しきれなくなる前に、大人に相談して下さい。家族に話して下さい。石南中の先生たちは、必ず、

一緒に考えます。安心して、頼りにしてください。

では、今日から始まる中学校生活。それぞれの「英知の鏡」を、ぴかぴかに磨いていってください。

結びとなりましたが、本日、117名の新入生を加え、総勢352名の生徒が全て、石神井南中学校教職員の教え子となりました。保護者の皆様には、お子様の入学の喜びと共に、ぜひ、我が子だけでなく、石南中の、地域の子供たちとして、352名全員を、共に、温かく見守り、共に育てて下さるようお願い申し上げ、式辞といたします。

平成31年度 教職員組織

